

平成24年度

## 第2回 長岡市図書館協議会

日 時 平成25年2月14日(木) 午後2時～午後4時

会 場 中央図書館2階 講座室1

会議出席者 委 員： 渡邊委員長 淵本副委員長 佐藤(銀)委員 稲田委員  
恩田委員 小林委員 湯本委員 松本委員 佐藤(明)委員  
畠野委員  
事務局： 品田館長 島田館長補佐 岩淵庶務係長 松矢奉仕係長 石  
井文書室長 指定管理者田原統括責任者 同高橋業務統括  
チーフ 同渡辺業務統括チーフ

### 1 開会

### 2 議事

#### (1) 報告事項

- ① 平成24年度重点事項の取組状況について
- ② 地域図書館指定管理者(更新)の指定経過について

#### (2) 協議事項

- ① 平成25年度の運営方針(案)について
- ② 平成25年度の主な事業計画(案)について
- ③ 長岡市立図書館の活動評価について
- ④ 長岡市子ども読書活動推進計画(案)について

#### (3) その他

### 3 閉会

### 4 会議録要旨

- 指定管理者の新しい提案が読み取れなかった。全体として、今までやってきた形をそのまま継続しますという、トーンだった。これまでも中央館と地域館の連携強化ということがずっといわれてきたが、次の5年間は重要である。手綱をしっかり握って、やっていただきたい。
- 合併市域に住んでいるが、中之島と栃尾地域図書館に行ってみたが、職員の対応も含めて大変いい雰囲気だった。大変愛想が良かったと感じた。
- 図書館の運営方針は昨年度と変わらないということだが、平成25年度の指定管理

者については、結果的に今までと同じ業者になった。今までが 100 パーセント優れていたかと言うと、様々な課題や問題点が議論されてくる。中央館と指定管理者がやっている地域館の具体的な提携強化について、アイディアの段階でよいので、考えがあったら示していただきたい。

⇒地域図書館は、7つあるが、利用者から寄せられる要望やご意見は、非常に地域性があると感じている。地域性の違いとか個々の図書館に対する想いの違いは、些細なことと思われるかも知れないが、図書館がどうあるべきかということでは、大きな問題だと思う。市の図書館として、どういった対応が必要なのかを中央館と地域館でしっかりと議論した中で、特色を出して行けたら良い。図書資料のリクエストの質が最近非常に多様化、高度化している。予算の枠もあり全て受けることは不可能のため、選書会議において個々に審査し、基準に沿って購入の可否を決定している。これは、中央館が主導して、かなりシビアに決定しているものだが、地域館にも同様の対応をお願いしている。各地域館において、市町村合併を経て、直営から指定管理になったことによるサービスやレファレンス能力の低下が起きないように積極的に研修を行い、職員のスキルアップを図る取り組みを進めていきたい。

○25年度で結果を出せというのではなく、長期的に進めていく事柄である。25年度以降の5年間は、指定管理の拡充、廃止といった色々な議論もあるが、連携力を高めていけるのか、地域館を束ねて行けるのか中央館の対応が問われることになるので、期待をしている。

○合併地域も含めて、様々な地域資料があるのは、よく知られているところである。一括してそれらを保存し、展開して行くには、文書館・公文書館が必要と思っている。これから具体的な検討に入るということだが、文書館・公文書館がどうしても必要で造って行くというスタンスなのか。

⇒市全体の中でどのような文書館にするかを明確に打ち出すのが、平成25年度と考えている。中央館や関係部局と協議し、検討をしていきたい。

○歴史的資料は、「市民の財産」とあるが、それに加えて「教育資源」でもあるし、「観光資源」にもなり得るものであって、長岡市の今後の政策、施策を策定していく上で重要な資料になり得るものである。そのようなスタンスでアーカイブを設置していく必要がある。最近、長岡市よりずっと小さな市や町があえて公文書館を造るというケースも全国的に見て出てきているので、前向きに各方面と検討してもらいたい。期待をしている。

○貴重な資料と言うものは、現在も過去に遡っても離散しがちである。不要なものは捨てられるわけだが、価値のあるものは残しておく必要がある。しかし、全部残すことはできない。民間の資料についても、管理してもらえような公文書館としていただきたい。

⇒合併前の旧公共団体ごとに市町村史がある。各々の取組の成果として刊行物の市町

村史があるわけだが、そのバックグラウンドの資料はというと、あるものは旧団体が所蔵していたり、コピーがあったりするものである。例えば10年前に旧家に刊行当時にはあり、目録にも残っていたものが、今年見てみると処分されていたり、離散していたということがある。そうすることがなく、残せる環境を整備するものが文書館である。もうひとつ公文書館という意味合いがある。その当時は単なる行政上の事務手続きだったものが、一定の年数を経た後に歴史的価値が出てくる。公文書が収蔵されていくアーカイブも必要だと考える。

○文書館の構想を内部で検討するということだが、内部でやったら一步前に進むのか。  
⇒内部というのは、あくまで職員による内部検討である。基本的な枠組みが決まった後で、外部の専門家の方を入れて具体的な検討に入るとするのが手順と考える。現時点では、外部委員を入れて検討する段階ではないと考えている。

○新しいICタグゲートは、今図書館にある全ての資料を対象にしているのか。  
⇒ゲート自体は新しい設備だが、今あるゲートも併用して使う予定である。25年度の初年度で全ての資料にICタグを貼ることは困難なため、年度ごとに、順次増やして行き、今のゲートも併用しながら行っていきたい。

○先ず、参考資料を対象にすることか。  
⇒貴重な資料から優先順位を付けて順次進めて行く予定である。

○全資料を対象にすることは、予算上無理なことなのか。  
⇒予算の内示の段階では、ゲートは要求の満額が認められた。資料に貼るICタグは、優先順位を決めて部分的に行っていききたい。何年掛かるか未定だが、将来的には全資料に付けたい。一挙には出来ないので、貴重な資料から行く。

○事項別活動評価の11番であるが、中の付表2の6ページ、評価はAとなっているが、総括表の備考の評価は、Bとなっている。どちらが正しいのか。  
⇒総括表記載の評価をAと訂正していただき、委員から評価していただきたい。

○地域の住民の取次所の利用状況や、ボランティアの活動状況を把握していないが、遠いどうしても情報が得にくいのではと感じている。何か遠い地域に対してのサービスを考慮して欲しい。そういったサービスは難しいのかも知れないが、今、やっているとしたらもっとアピールをして欲しい。

⇒現在、川口地域の川口公民館に取次所があるが、利用者が多い状況である。その他に、中央図書館から米百俵号が地域の小学校1か所、保育園1か所を巡回しているのでそこで、予約をし、受け取れるようになっている。

○合併前の与板町、和島村は図書館を造らなかつたわけで、合併後は取次所や米百俵号の巡回はあるがサービスが十分に行き渡っていない、と感じている。来年度から与板のコミュニティセンターが開設される予定であり、その中に小規模な図書室と医療関係の機能をもつ施設の設置が素案として出ているので、良いことだと思っており、その整備には運営委員でもあるので力を尽くしたいが、図書館も協力をお願い

いしたい。図書館がない与板、和島、三島、越路などの地域に関心を失わずに、サービスが行き届くように目を向けてもらいたい。

○B評価がついた1つにページAの2と3 調査レファレンスの充実(1)のところであるが、件数自体はそんなに多くは無いし、未解決の件数も無いと言うことは研修など、色々なハード、ソフトを含めて努力をされているところだなど思っている。前にもお話したが、将来を考えた場合、図書館だけで完結できるレファレンス等の限界もある。富山、石川県のように県立図書館と大学間で横断検索が可能なところもある。国立・県立図書館との連携や市内の三大学一高专との連携については、ソフト・ハード両面を含めてもっと認識を持ってやっていただけたらと思う。

⇒技術科学大学へはレファレンスをお願いしたことがあるので、今後とも大学との連携はお願いをしたいと考えている。

○長岡大学は、政治・経済・経営・ビジネスを中心に7万冊ほど蔵書しているし、色々なデータベースも用意しているので、その分野で、手に負えないものがあつたら利用していただきたい。閲覧は、自由にできる。3百円か5百円を負担して、登録していただければ、貸出も可能としている。

⇒新潟県立図書館も方針転換をして、市町村の図書館並みの蔵書としている。専門分野においては、やはり限界があるので、市内には長岡大学、長岡造形大学、長岡技術科学大学がある。各大学との連携は、早急に協議だけでも進めて行きたい。

○先般の金澤翔子展については、AAではなく、スリーAの評価でも良いと思っている。アオーレでの揮ごうの際は、翔子さんと一緒に写真も撮らせていただき、同じ障害を抱える人たちが非常に勇気もらったと言う声を聞いている。近年稀に見るヒットした企画であつたと思う。

○ただいまの評価は内部評価のわけだが、少し難しいのかも知れないが、外部の評価を得ると言うことは考えているのか。

⇒この評価は、図書館の職員が、日々行っている活動を自らが振り返って評価し、次年度以降の活動取組みに生かすことが目的ととらえている。職員が1次評価を行い、本協議会に諮ってその結果を公開することで、目的が達成されているものとする。外部の評価については、検討する必要がある。

○学校の評価は、先生方が先生方の評価をするわけだが、保護者や生徒からも記名式でアンケートを頂いており、非常に厳しい意見を頂くことがある。その内容は学校のホームページで公開している。ピンチはチャンスなわけで、厳しいご意見は、変化する良いチャンスと考えているので、検討されてはと思い提言した。

⇒行政評価という言葉はよく聞く訳だが、民間と比較して、行政については、一般的に評価しにくいと言われている。図書館は、常に利用者との関係、サービスの提供がどうかという評価が全てであると考えている。行政サービスの中でもサービスそのものが仕事であり、提供するサービスの内容が明白に外に現れると言う点では特

殊なところと認識している。外部の評価は早急には難しいと考えている。

○これはなかなか評価しにくいと思う。例えばAをBに下げるとか、AAをAに下げるとかを考えると難しい。一番客観的に評価できるものとして、入館者数の減少や貸出冊数の減少があるが、これを皆さんから分析してもらわないと評価のしようがないと思う。人口の減少とか年齢別や職業別といった分析が必要であり、数字の奥にあるものが重要と思う。時間がかかるというのであれば、肌で感じているものもあると思うので、できる範囲で分析をお願いしたい。それをこの評価に付けていただかないと評価が難しい。例えば、入館者数の年齢別がわかれば開館時間の問題につながって行く。地域間が夜8時までなのに中央館はなぜ7時までなのか。郵便局でも本局の方が遅くまでやっている。

⇒図書館が持っているデータで統計的処理が可能な事項は、分析ができるものであり、今回、分析結果を示すことができなかつたことは反省点として、次回に生かして行きたい。ここに、貸出冊数の年齢別動向のデータがあるが、分析を行った結果、その60パーセント強を子育て中の方や就労年齢層が、10数パーセントを中学生までの子どもの年齢層が占めている。中学・高校生に至っては、全体の2パーセントと貸出冊数の動向がある程度分析できる。今の利用者へのサービスをどう充実させるかを考えがちだが、図書館を全く利用しない市民が8割強もいる。将来に向け、利用者を増やすことも課題である。中学・高校生の割合を部活や受験で時間を割かれると言う理由もあると思うが、増やすためにはどうすべきかということは大きなテーマとして、とらえている。何らかの対応や取り組みをした上でご報告できればと思うし、評価に必要なデータを今後、積極的に示して行きたい。また、開館時間については、指定管理に密接に絡んだ問題で、条例上は中央館、地域館ともに午後7時までとなっているが、指定管理者の提案により地域館は8時までとしている。中央館の対応の課題もあると思うが、指定管理制度導入の大きな効果だと考えている。

○目的は評価の結果をしっかりと活動に反映させ、より良くすることであり、評価自体が目的でない。

○歴史的資料の保存管理は、大変重要な問題である。保管場所は、教育委員会所管の施設以外にも本庁、支所の施設も含めて広く調査した中で決定していただきたい。

○5番 児童の読書活動の推進の(2)多様な普及事業の実施についてであるが、放課後や土日及び、夏休み、冬休みの期間に子どもたちの読書に係る色々な企画に対しては本当にありがたい。資料では小学生の参加状況はそんなに悪くはないと思うが、どうしても参加できない場合もあるわけで、評価する上で、参加人数の実績だけで判断するのではなく、多様な読書活動の場の提供ということで、これからもよろしくをお願いしたい。「5番 (1)の学校・保育園等の読書活動への支援」についてであるが、巡回図書、昼休みの読み聞かせなど子どもたちの読書活動への支援のほか、各学校図書館主任職員の研修時や学校図書館の管理に対するアドバイスな

ど、職員に対しても全面的な支援を頂いており、お礼を申し上げたい。

- 「6 広報活動の充実の(2)館報等による図書館利用のPR」についてであるが、ネットを使って「アマゾン」で本やDVDを買うと関連した本などの紹介が電子メールで来るが、図書館も民間に負けないよう、攻めの情報提供を研究する必要がある。こうしたシステムは今は高価かも知れないが、廉価版も出て来る可能性もあり、大人の大半がスマートフォンを持つ時代の中、すぐには言わないが将来向けて、それらを使った攻めの情報提供を図書館のサービスとして検討していただきたい。
  - 読書活動を盛んにするためにボランティアに入っていたりとか、子どもの読書場を充実すると言うのは、ありがたいことと思っている。「4のその他」のコメントについてであるが、「教職員が公立図書館の役割やサービス利用のノウハウをほとんど知らないのが現状」と言う指摘は当たっているところも多い。学級担任をしながら図書館の運営もするという厳しい現状のなか、おぼつかないところをボランティアの方や、中央図書館の職員の方から本の整理や図書館運営のノウハウについて教えて頂いている訳で、やはり教職員だけでおぼつかないのが現状だと思う。
  - 千手小学校では、図書の内容も充実し、読み聞かせなどのボランティアの活動も盛んであると聞いている。そこでの運営方法が参考になると思う。最近、学校からのボランティアに対する要請が減ってきているのが気掛かりだ。学校の施設管理の問題もあるが、責任者の考え方も影響すると思う。ブックスタートを実施してから10年経過する。これをしっかりやれば、小学生の読書活動につながる。親が本の重要性を子どもの小さいうちから認識する事がとても大事だと思う。読み聞かせボランティア等の拡充も含めて、ブックスタートの事業を充実していく必要がある。
  - 遠隔地に対する情報提供や子どもたちへ本をアピールする広報を学校、地域、図書館等が連携し、さらに充実してほしい。
- ⇒計画策定するに当たり、今まで行政の中の、複数の関係部署、例えば学校教育の分野、社会教育の分野等の枠内で、縦割りに実施してきた事業を連携して推進していくために、子ども家庭課、保育課、学校教育課、中央図書館等の担当で議論・検討を行ってきた。そこで様々な現状、課題や意見を整理し、パブリックコメントで外部のご意見を頂いた中で、成果として第一次としての計画案ができた。その取り組み自体にも大きな意義があったと考えている。今後、活動を推進して行く中で、保育園等、学校及び図書館等の各分野での現状や課題等を保護者や一般市民に示していくことで、子どもの読書環境の整備につなげていくことができると考えている。
- 計画は中学生までを対象としているが、高等学校の中でも設備に格差がある。中学校を卒業しても、長岡のこどもには変わりがない。その年齢層の読書普及につながる方策を考えてほしい。